資料２

三重県の将来人口に関するシミュレーションの考え方

将来人口に関する政策シミュレーションを行うには、自然増減に関する前提条件としての「合計特殊出生率」と、社会増減に関する前提条件としての「転出超過数」の仮定が必要です。

これらの前提条件の仮定に関する現時点での案は以下のとおりです。

【合計特殊出生率】

パターン１：

「希望がかなうみえ　子どもスマイルプラン」の総合目標である「概ね 10 年後（2025 年）に合計特殊出生率を希望出生率である 1.8 台に引き上げる」を前提に 2025 年までの出生率を設定。その後、そのまま定率で人口置換水準である 2.1 まで引上げ、以降、2.1 で安定化させるケース

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
出生率	1.5	1.65	1.8	1.95	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1

パターン２：

2025 年まではパターン 1 と同様に設定。その後、人口置換水準である 2.1 に到達する時期を国の長期ビジョンに合わせ 2040 年に設定し、以降、2.1 で安定化させるケース

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
出生率	1.5	1.65	1.8	1.9	2.0	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1

【転出超過数】

パターン①

2012～2014 年までの直近 3 カ年の転出超過数の平均約 3,000 人から 5 年後の 2020 年には 1,500 人、2025 年には 0 人に引き下げ、以降、0 人で安定化させるケース

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
超過数	3,000	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0

パターン②

2012～2014 年までの直近 3 カ年の転出超過数の平均約 3,000 人が 2040 年に 0 人になるよう定率で引下げ、以降、0 人で安定化させるケース

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
超過数	3,000	2,400	1,800	1,200	600	0	0	0	0	0

パターン③

2012～2014 年までの直近 3 カ年の転出超過数の平均約 3,000 人から 5 年後の 2020 年には 1,500 人、2025 年には人口の社会増減が転出超過トレンドに転換した 1999 年から 2014 年までの平均約 1,300 人を下回る 1,000 人まで引き下げ、以降、1,000 人で安定化させるケース

	2015	2020	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060
超過数	3,000	1,500	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000